

戦国

—女城主ものがたり

文治元年(1185年)、源頼朝の家臣加藤景廉が遠山荘の地頭となり、景廉の長男景朝が岩村城を築き、遠山氏を称しました。

戦国時代末期、城主の遠山景任が病没し、養子として迎えていた織田信長の五男御坊丸がまだ幼少であったため、その夫人おつや(織田信長の叔母)が実質的な城主として、領地を治めていました。いわゆる女城主です。おつやは大変聡明で美しく領民に慕われていたそうです。

元龜3年(1572年)、武田信玄の24将の1人、秋山虎繁が侵攻してきました。おつやは自ら采配を振るい、信長の支援を待って籠城作戦に出ました。しかし、この時、信長は長島の一揆などで前に進めずにいました。籠城は3ヶ月にわたり、城内の食糧も不足して来たころ、虎繁からおつやを妻とすることを条件に無血開城を申し入れてきました。おつやは苦渋の末、城兵や領民の命を守るため敵将との結婚を決意し、開城しました。その後の数年間、おつやは虎繁と共に、城の普請や城下町の守備に勤しみ、平和な日々を過ごしました。

しかし、御坊丸は信玄の下へ人質として送られてしまい、岩村城も乗っ取られてしまったことに信長は黙っていませんでした。

天正3年(1575年)、長篠の戦いで武田勝頼軍が敗戦したことにより、武田と織田の勢力が逆転し、信長の嫡男信忠率いる織田軍が攻め入りました。この時も半年に及ぶ籠城で城を守りましたが、武田の援軍も望めず、信長からの条件を呑み、開城しました。その条件とは、領民を守り、おつやと虎繁の命を守るという約束でした。しかし、信長はこれを反故にし、夫妻は磔刑に処されてしまいました。

霧ヶ城伝説

岩村城には17箇所もの井戸がありました。そのため籠城の際にも飲み水に困ることがなかったわけですが、なかでも八幡曲輪にある霧ヶ井は、城主専用の霊泉で、「巖邑府誌」という書物に、「敵が攻めて来たとき、城内秘蔵の蛇の骨をこの井戸に投げると、たちまちにして雲霧が湧き出て城を覆い尽くし、城を守った」と記してあります。ゆえに、岩村城は別名を「霧ヶ城」と呼ばれています。



江戸—松平藩の時代



岩村藩校知新館正門

江戸時代に入ると大給松平氏の松平家乗が岩村藩を立藩、城山の北西山麓に藩主の居館を移し城下町など領内の整備が行われました。2代乗寿が浜松藩(静岡県浜松市)に3万6千石で移封となり、代わって伊保藩(愛知県豊田市)から丹羽氏信が2万石で入封します。元禄15年(1702年)、丹羽氏信がお家騒動で越後国に移封になると小諸藩(長野県小諸市)から松平乗紀が新たに岩村藩主になります。以後、松平家が7代乗命まで岩村藩を守り明治維新を迎えています。

明治／大正時代

明治2年(1869年)、最後の藩主である松平乗命は版籍奉還により岩村藩知事に任じられます。明治4年(1871年)の廃藩置県により、岩村藩は廃藩となり、岩村県を経て岐阜県に編入されました。水野薬局(水野家)には自由民権を主張した板垣退助が明治15年(1882年)岐阜で暴漢に襲われる数日前に宿泊をしたというエピソードもあります。



② 水野薬局

昭和—生糸工場で賑やかな時代



ふれあいの館(観光案内所／「えなてらす、いわむら。」)

幕末のむらおこし事業で始まった製糸業は、岩村館、丸八製糸場などが起業し、昭和の全盛期には恵南協同蚕糸株式会社、西尾製糸場で、町内の女性たちが女工として大勢働いていました。現在もふれあいの館、うめしょうなど大正・昭和初期の懐かしい建物が町中に残り、当時の賑わいを伝えてくれます。

岩村の偉人



佐藤一斎

1772-1859年

幕末の大儒学者で日本の孔子とも云われる人物。半生にわたって執筆した随想録「言志四録」は、西郷隆盛などの指導者や、明治天皇、そして現在に受け継がれている。



下田歌子

1854-1936年

明治から昭和に活躍した教育家であり歌人。幼名平尾銆。5歳で俳句・漢詩を詠み、和歌を作る神童で、後に日本女子教育の先覚者となりました。(実践女子学園創設者)



三好 学

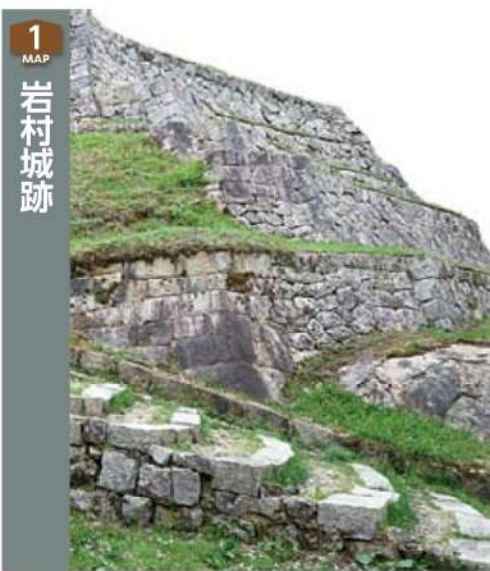
1862-1939年

わが国の植物学の基礎を築き、桜と花菖蒲の研究における世界的な第一人者。天然記念物の制度を日本で最初に提唱し、著書で「環境があつてそこに人間が存する」と自然保護を提唱している。「景観」という言葉を最初に著している。

なだらかで優しい恵那山と岩村城跡のある城山に抱かれた岩村の町。
遠く戦国時代から江戸、明治、大正、昭和と古き良き時代の変遷を楽しむことが出来ます。そして、美味しい水と豊潤な土地から生まれた食がたくさんあるのも岩村です。
地元の新鮮な野菜や果物、米から生まれたメニューも色々。
女城主の里岩村を、ごゆるりとお楽しみください。

いわむらの観光スポット 女城主の里を歩く

1
MAP
岩村城跡





六段壁の見事な石垣が重厚な歴史を語る場所

大和高取城（奈良県）備中松山城（岡山県）と並び日本三大山城の一つに数えられる名城で（公財）日本城郭協会により『日本百名城』に選定されました。

2
MAP
下田歌子勉学所



日本の女子教育の先駆者であり、実践女子大学の創設者である下田歌子が、父の書斎で父と祖父の蔵書を読み、独学で和漢学を学んだ部屋を復元しました。

4
MAP
大将陣公園

5
MAP
妙法寺まくら塚



女城主と武将たちの眠る場所
女城主と秋山虎繁、武将たちの眠る大将陣と江戸時代にその御霊を弔うため作られたまくら塚のある妙法寺。岩村城内にあった城門が移築されています。

12
MAP
日本一の農村景観展望台

岩村城下町から車で5分。
ここから望む農村の風景は絶景です。

重要伝統的建造物群保存地区
(岩村本通り・城下町)



人々の生活の歴史に触れる場所

岩村本通りは商家の町並みとして、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている女城主ゆかりの城下町。当時の面影を残す商家や旧家、ナマコ壁などが今も佇んでいます。

8
MAP
土佐屋

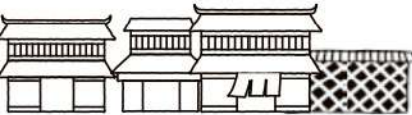


江戸時代、染物屋を営んでいた旧家
約260年前に染物業を営んでいた商家で平成11年に「工芸の館土佐屋」としてオープン。当時の染物の工程を学ぶことができる染工場、土佐屋の歴史を展示した土蔵などがあります。

10
MAP
加納家



藩政時代に火縄銃や槍を製造
一部土蔵づくりの一風変わった外観で軒の採光窓が特徴。江戸時代から三代続いた鉄砲鍛冶。初代加納伝左衛門包房が櫓、蔦口、刀などの武器を鍛造した記録が残っています。



9
MAP
勝川家



商家として幕末に台頭し藩財政に貢献
江戸末期に台頭した商家で屋号は「松屋」。江戸後期の建物で木造2階建て、2軒の建物で成り立っています。書院、茶室、使用部屋などがあり、往時の暮らしを見ることが出来ます。

11
MAP
柴田家



明治時代の町屋の形式をよく残している
柴田家住宅は明治時代の典型的な建造物で、整備工事によって平成15年に『いわむら美術館』としてオープン。建物内には絵画を中心に展示され、建物とともに見学できます。

いわむらのお祭り

3月

いわむら城下町のひなまつり

江戸時代から伝わる由緒あるおひなさまや藩主邸にまつわる古今雛、装飾が見事な御殿雛など、3,500体を超える様々な種類のおひなさまが展示される春の風物詩。3月1日～4月3日

8月

いわむら夏祭り

70年を超える歴史を持つ元祖コスプレ大会「いわむら夏祭り大変装行列」。各町内が工夫を凝らした衣裳や造り物で本通りを練り歩きます。
8月第1土曜日

ザ・縁日

夏祭り・薪能と並び岩村の夏の三大イベントのひとつで、若者の力を結集した一大イベント。昔懐かしい縁日の趣やふるさと創生花火を楽しめます。
8月13日

いわむら城址新能

岩村城藩主邸跡で老松を背景に、かがり火を焚き、自然景観を活かした特設舞台で開催される野外能。月の光とたきぎの薄明かりの中で上演される能はなんとも言えない趣があり、日本の伝統芸能の醍醐味を存分に味わうことができます。
8月下旬の土曜日

10月

秋祭り 神輿渡御行列

〈岐阜県重要無形民俗文化財〉
古式の衣装をまとった総勢約300名の行列が数百メートルにわたって城下町をゆっくりと歩く姿は圧巻。10月第1土・日曜日

11月

いわむら城下おかげまつり

秋の収穫の喜びと郷土への感謝（おかげさま）を伝える場として、歴史の町並み（岩村本通り）を舞台に開催される秋の賑わい市。11月上旬



いわむら五っこ

岩村町内で開催される木工体験や型紙体験、城下町めぐりなどの体験プログラムを集めたイベントの愛称が「いわむら五っこ（ごっこ）」です。人とのかれあいを通して、より深く岩村を満喫してください！
<http://iwamura55.com/> いわむら五っこで検索！

おとく〜ぽん

600円以上の商品がゲット!!
500円で3枚綴りの岩村町でのお買い物にお得なクーポン券。城下町散策しながら、600円以上の商品との交換の特典を受けることができます。また、おとく〜ぽんを提示することで歴史資料館の入館料が100円引きに。販売は、ふれあいの館内の観光協会「えなてらす、いわむら。」で。

◆お問い合わせ

(一社) 恵那市観光協会岩村支部 (ふれあいの館内) **TEL 0573-43-3231**
<http://iwamura.jp> E-mail kankou@iwamura.jp
女城主 特設ページ <http://onna-jyoushu.iwamura.jp>

岩村歴史資料館	入場料／一般300円 65歳以上200円(高校生以下無料)	TEL 0573-43-3057
木村邸	入場料／無料 定休日／月曜日(休日の場合は開館)	TEL 0573-43-2846
土佐屋	入場料／無料 定休日／水曜日(休日の場合は開館)	TEL 0573-43-3451
勝川家	入場料／無料 定休日／火曜日(休日の場合は開館)	TEL 0573-43-4770
加納家(鉄砲鍛冶)	入場料／無料 定休日／木曜日(休日の場合は開館)	TEL 0573-43-2442
柴田家	入場料／無料 定休日／金曜日(休日の場合は開館)	TEL 0573-43-4660

◆アクセス

車で 名古屋IC 中央自動車道 約50分 恵那IC 国道257号線 約20分 岩村町

電車で JR名古屋駅 中央本線 約60分 JR恵那駅 明知鉄道 恵那駅 飯羽間駅 極楽駅 岩村駅 約30分



協賛：(株)十六銀行

